



岩手県県北家畜保健衛生所
岩手県北家畜衛生協議会

目次

巻頭言	1
今年も暑熱対策をしましょう！	2
転入者の紹介	4

巻頭言

所長 木戸口 勝彰



日頃から家畜防疫、衛生対策に御理解、御協力賜り感謝申し上げます。日本を取り巻く家畜衛生状況は、周辺国では、依然として口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生が継続し、予断を許さない状況にあります。また、配合飼料価格の高止まり、環太平洋経済連携協定に備え競争力のある生産体制の構築が課題です。

当所の使命は、本県の本格復興の完遂、畜産振興のため家畜疾病対策による畜産経営の安定と生産振興を推進することです。現在は、生産意欲が高まる市場価格、枝肉価格動向であり、生乳需要の活発な時期です。今年度の農林水産部のキャッチフレーズ「収益アップ、果敢に挑戦！岩手の農林水産業」のもと、次の取組みを行います。

1 重要家畜伝染病（口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ）の防疫対策の維持・強化

発生予防、早期通報、迅速な初動対応が基本であり、被害を最小限に抑えます。そのための準備と対応です。飼養衛生管理基準の遵守は、農場個々の家畜衛生水準の維持・向上による疾病の侵入防止を、さらに周辺へまん延防止を図るための手法で、もしものときは早期通報を促しています。毎年の定期報告は、農場の最新情報（埋却地の確保状況、飼養頭羽数等）を更新し、防疫対策に活かされます。

肉用鶏10万羽規模でも発生から24時間以内の殺処分、72時間以内の埋却処理を可能にするため県職員の支援員をこの4月から600人体制に増員しました。

今後、具体的に役割分担を明確にした事前準備を進め、関係者と連携、協力を継続していきます。

次頁に続く

2 県内、農場で問題となる監視伝染病、生産阻害疾病、食の安全に関わる疾病対策

牛では、牛ヨーネ病、牛白血病及び牛ウイルス性下痢・粘膜病を重点的に、肉用牛は、関係機関と協力し、市場前巡回を継続し、飼養管理の改善を促します。

豚では、豚流行性下痢は県内では流行が沈静化したものの、昨年度はサルモネラ症、豚赤痢の発生があり、生産性向上、食の安全の観点からも対策が重要です。

鶏では、疾病発生時の鳥インフルエンザとの類症鑑別、生産性阻害要因解消のため対策提案を適切に実施していきます。

科学的根拠に基づく診断、対応策を提案し、生産者、関係者の方々に丁寧に説明しながら、理解と納得を得て対策を推進します。

畜産は、県北局管内の農業粗生産額の8割以上を占め、地域の重要な基幹産業です。全国3位の出荷羽数を誇る肉用鶏の6割が集中し、大規模化やグループ化が進む養豚経営体、県内有数の大規模酪農経営体が存在し、それらの疾病対策に努め、関係者が一体となり高い防疫レベルを維持し、生産性向上対策を支援していきます。

今年も暑熱対策しましょう！

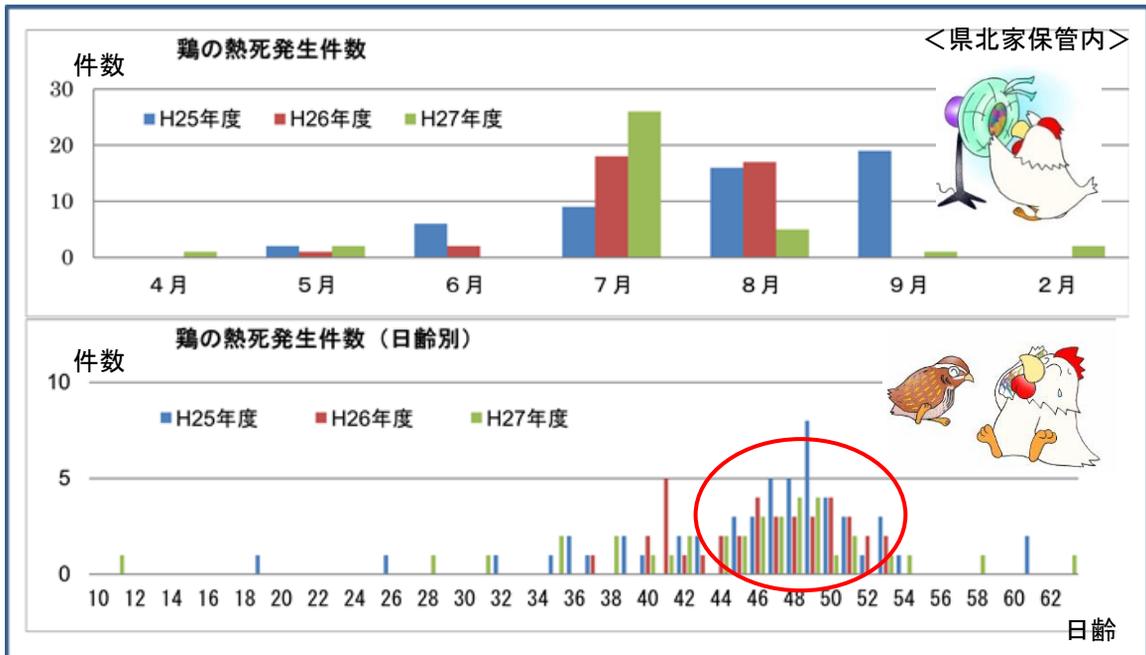


- 暑くなると、家畜（牛、豚、鶏）は呼吸数の増加、飼料摂取量の低下といった反応をとりますが、臨界温度を超えると調整できなくなり、体温が上昇し、生産性や繁殖成績が低下するだけでなく熱射病となって、死亡する場合があります。一般に家畜は汗をかきにくく、鶏には汗腺がないため特に高温環境に弱い傾向にあります。
- 養鶏農場では、毎年のように被害が発生しています。5月から発生が始まり、7、8月に件数が増加し、9月まで継続する年もありました。盛夏は勿論、梅雨どきに急に気温が上昇した日や秋季まで、気温の動向を把握した警戒を継続することが必要です。

発生する日齢は11～63日齢と幅広いものの、鶏が成長して飼養密度が高くなる40～50日齢前後での発生が多い傾向にあります。

暑熱対策のため、畜舎の気温上昇を抑制し、換気や送風によって熱を排出すること、新鮮な水を十分に与えることなどの対応を気温に応じて組み合わせる取組が大切です。

次頁に続く



(1) 畜舎内温度の上昇防止

○屋根への散水

畜舎の屋根にスプリンクラーや小さな穴を開けた灌水チューブを設置して、屋根全体に散水を行い、屋根裏の温度を低下させ、太陽光の輻射熱を低下させます。

○遮光ネットの設置

畜舎の屋根からの輻射の他に、日射光が直接畜舎内に入らないように遮光することが効果的です。ただし、遮光材は日光の侵入と同時に自然の風も遮るため、換気の効率が悪くなります。そのため設置の場所や角度を検討するとともに、送風装置の併用についても検討します。



スプリンクラーによる散水



寒冷紗による遮光

(2) 飼養環境の改善による熱放散の促進

○ファンやダクト送風機による送風

畜舎の温度を下げるには、通風換気を良くすることが一番です。窓や壁等を極力取り払い、舎外から新鮮な空気を取り入れて、舎内の湿った空気を効率的に排出することが大切です。

ファンやダクト送風機による送風には、畜舎内の換気を良くして温度を下げるるとともに、家畜体表面から熱を奪うことで、熱負荷を軽減する2つの効果が期待されます。



ファンによる送風



ダクト送風機



ファンによる送風

(3) ストレス低減技術

○飼育密度の低減

家畜そのものや糞便が熱源となることから、夏期は飼養密度を低くし、除糞はこまめに行います。運動場等がある場合は、夜間に半数の牛を畜舎外に出して、その間に畜舎内を十分に冷やします。クーリングパッドによる入気冷却なども効果的です。

○低温で十分な飲水の確保

ウォーターカップや給水管などを確認し、低温で十分な飲水を確保します。



ウォーターカップ



給水管



給水槽

(4) 飼養内容や給与方法の変更

早朝や夜間等、涼しい時間帯を選んで給餌し、家畜の移動や出荷は涼しい時間に行いましょう。

転入者の紹介

氏名	武田 哲	中野暢彦
前任地	県南家畜保健衛生所	中央家畜保健衛生所
部門	次長	企画
担当	業務全般	各種事業、予算管理、庶務、緊急防疫体制整備など
抱負	明るい職場づくりを通して当所業務の円滑な推進に貢献していきます。農場HACCPに興味があります。	当所職員のバックアップを通じて、家畜伝染病の発生予防・まん延防止対策、生産性の向上に貢献していきたいと思えます。
一言	県北家保は、初めての勤務です。地域のことも含めていろいろ教えていただければ幸いです。	旧二戸家保以来、16年ぶりに戻ってきました。所内勤務が主になりますが、よろしくお願ひします。

《発行元・問い合わせ先》

岩手県県北家畜保健衛生所

電話：0195(49)3006

岩手県北家畜衛生協議会

FAX：0195(49)3008

電話：0195(49)3040